

## (3) C 中学校の取組 ～切れ目のない支援のために～

### 1 ここがポイント！

- 教科担当者会議を利用！
- 切れ目のない小・中学校の支援の継続
- みんなで気づく、支える支援体制



### 2 年間スケジュール

月	特別支援委員会
4月	○引継事項の確認と共通理解 【教科担当者会議】 ○第1回特別支援教育委員会・就学指導委員会
5月	○実態調査『気になる生徒』アンケート実施 ○第2回特別支援教育委員会
6月	○校内研修会【外部講師】 ○共通理解【生徒指導全体会】
7月	○1学期の支援状況の成果、評価、支援内容の修正・改善【教科担当者会議】
8月	○第2回就学指導委員会
9月	○第3回特別支援教育委員会・就学指導委員会
12月	○2学期の支援状況の成果、評価、支援内容の修正・改善【教科担当者会議】
2月	○1年間の支援状況の成果、評価 次年度への引継事項の整理【教科担当者会議】
3月	○第4回特別支援教育委員会 ○第5回特別支援教育委員会 ○受け入れ体制の整備

### 3 特に工夫していた点

#### 【教科担当者会議を利用して支援策を】

ポイント① 既存の会議をうまく活用して支援策を考えています。



中学校は話し合いをする時間を確保するのが難しいため、生徒指導委員会や生徒指導全体会などの既存の会議をうまく活用し、通常学級に在籍する支援を必要としている生徒の状況や支援について、全職員で共通理解を図るようにしています。

また教科担当者会議を活用し、年度当初や各学期の反省時には、教科担当者同士で指導方法や支援方法の振り返りを行うと共に、学期ごとに支援員の配置について検討し直しています。教科担当者会議の中で、支援を要する生徒達について話し合う機会を設けることで、各教科ごとの指導・支援の方法を伝え合う機会、学び合いの機会になっています。

#### 【切れ目のない小・中学校間の引き継ぎ】



ポイント② 小学校のケース会議に参加し、情報共有、関係者間でのつながりを作っています。

小学校主催の小学校6年生最後のケース会議に、中学校の特別支援教育コーディネーターが参加して、ケース会を引き継いでいます。関係者と直接顔合わせしながら情報を聞くことで、中学校生活がスムーズに始められるようにしています。

また、中学校で行うケース会議は、定期的開催するとともに、本人も参加しています。自己理解を深めさせながら、自分の人生設計ができるよう支援しています。

ポイント③ 新入生の入学前教育相談の実施！



入学前の3月下旬に、小学校からの引き継ぎを受けて、本人・保護者と事前の教育相談を実施しています。小学校のケース会議にも参加し

## V 具体的な実践から学ぶために

### 1 小・中学校、高等学校の特別支援教育コーディネーターの具体的実践

ていますので、より安心して事前に引き継ぐことができます。

入学前に、中学校のコーディネーターとして教育相談ができると分かれば、本人も保護者も小学校の先生方も安心しますね。

#### 【特別支援教育の理解啓発】



ポイント④ まずは正しい情報！  
研修会の実施！相談につなぐ窓口、  
「カウンセリング通信」の発行！

C中学校では、春に特別支援教育コーディネーターによる研修と外部講師による研修会を実施し、障がいの特性や支援に関する情報や資料を提供することで、なるべく早い段階で教職員の共通理解が深まるようにしています。

また、特別支援教育コーディネーターとスクールカウンセラー（SC）で発行する「カウンセリング通信」において、特別支援教育に関する情報や教育相談の窓口、SCの来校予定を知らせるとともに、心理テストなどを紹介しながら自分の特性のとらえ方などについて情報発信しています。通信を見た保護者や生徒本人からSCとの相談希望があるなど、多くの生徒が関心をもって読んでくれる情報源になっています。

正しい情報がないままでは、何を相談し、何を検討すべきかもわかりません。情報発信は積極的にしたいですね。

#### 【「支援が必要な生徒の把握のために」】

ポイント⑤「気になる生徒」のアンケートを実施しています。



5月に全職員に「気になる生徒」のアンケートを実施しています。支援が必要な生徒については、特別支援教育委員会で協議し、就学指導委員会へつないだり、校内支援体制を構築するために、ケース会議行ったりしています。

そして、支援方針が決まった段階で、生徒指導全体会で全職員で共通理解を図っています。

障がいの有無にかかわらず、支援が必要な生徒を把握し、必要な支援を届ける工夫の一步は、全教職員で全生徒を丁寧に観察し、共通理解する場をもつことですよね。

#### 【誰にとっても安心・安全な学校のために】

ポイント⑥ 学校全体で、学びの環境を考えます。



クールダウンが必要な生徒がいる場合には、各学年の意向を踏まえ、生徒本人が落ち着ける場所かを確認したうえで「リソースルーム」を設置することも行っています。本人が安心してクールダウンと切り替えができる場所を作り、リソースルームを足掛かりに学校生活を送っていけるよう、学校全体で見守る体制ができています。

#### 【一人で抱え込まない支援体制構築】

特別支援教育コーディネーターが中心となり、さまざまな情報や状況の確認と連絡調整を行います。校長や教頭が外部との連絡調整を迅速に行ったり、学年主任が学年体制を整えたりするなど、温かい校内体制を構築しています。

### 4 特別支援教育コーディネーターとして、大切にしている3つのこと

#### 1 生徒だけでなく保護者のよき理解者になることを心掛けています。

生徒や保護者との面談ではしっかりと話を聞き、安心して相談できる関係作りと丁寧な対応を心掛けています。生徒だけでなく悩んでいる保護者も多いので寄り添いながら支援をするようにしています。

#### 2 担任一人に抱え込ませないようによき理解者、アドバイザーになるよう心掛けています。

ちょっとした時間をうまく利用して先生方の話を聞くようにしています。必要に応じて三者面談にも担任と一緒にすることもあります。

#### 3 生徒一人一人に応じた進路相談に力を入れています。

中学校では高校受験という大きな試練があります。1年生のうちから自己理解（強みや良さ）とともに個に応じた進路選択ができるように、療育手帳の取得方法や必要な情報を提供し、目標が達成ができるように進路相談に力を入れています。